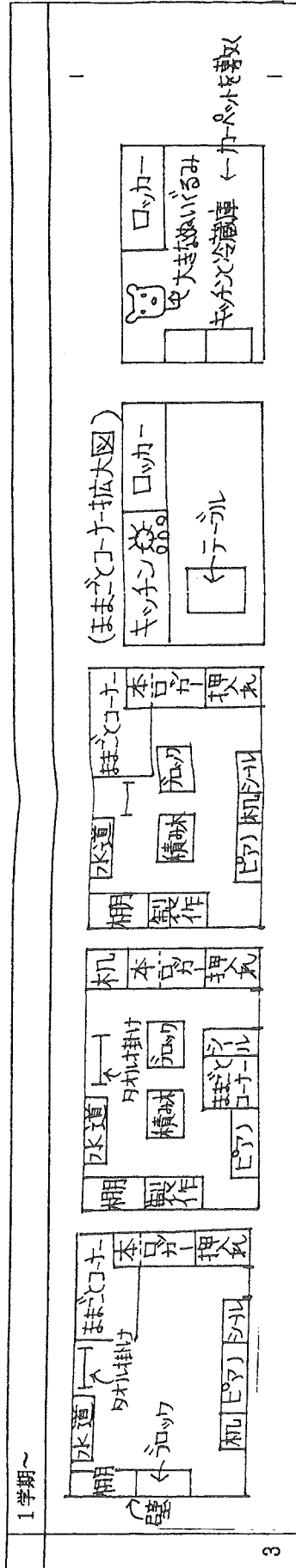


(3 歳児)



1 学期～

3 歳児

● 4月は、真ん中の仕切りを利用し、1組と2組の部屋を分けたい。
● 部屋が付かない場合は、1組に1部屋を配し、2組にもおまじょうな配置にし、差がつかないようにする。
● 折り紙や紙を折る活動は、中央に置き、ダイナミックに準備しよう。
● 本物にちかいかい家庭的な雰囲気にしていく。

● 真ん中にプロックのコーナーを移動する事で、子どもたちが以前より伸び伸びと遊んでいる。ままごコーナーを囲むことで、玩具をもちまわって歩いている姿も見られる。
● 5月からは、合同で始まる機会を多くする。活動する部屋をつかみやすくなる。生活年時時は、午睡が必要ない子どもも2組へ移動する。

● ままごコーナー…テーブルに料理を並べている姿が見られるが、キッチンで作ったり、狭く感じよう。
● 家庭的な雰囲気をつくるように、ぬいぐるみを置いてみる。冷蔵庫を置く。
● 圧迫感もなく、座って着しむのに丁度いい空間に倒してしまおう事が多くなる。

2 学期～

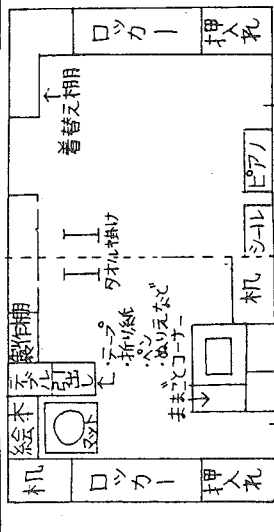
3 歳児

● 左の部屋は、主に座ったりして活動をする場として活用する。
● 食事を(給食)しながら活動する。
● 話しを聞く。
● 右の部屋は、コーナー等を設け、子どもが好きな遊びをする。
● 活動は、コーナーで活動出来るコーナーとして活用している。
● ロッカーの上も左側の部屋は、ぬいぐるみ等を置き、右側の部屋は、製作物を飾るようになっている。

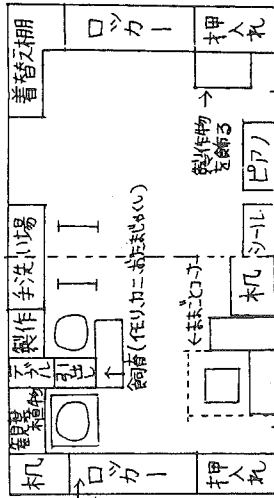
● ままごコーナーに大きな布・小さな布を置いておく。壁には、布と時計を貼ることなどで、よき雰囲気になり、家族ごっこ。お店屋さんごっこが行われる。
● 布を見つけて、ビクニック・遊足ごっこ・パスごっこ等、子どもたちが布ひとつで発想的に考え、遊べるようにする。
● 落ち着きの場として、利用する子どももいる。
● 製作コーナーは自然物を置き、自由に製作できるようにする。また3歳児ながら、共同作業もあがり、またじ作品を一緒に楽しむ姿が見られた。

● 机の配置は2列に机をまよめ、子どもたちがなるべく集中して話しかけ合っている。座っている。顔が見える。筆で落ち着かなくなった。
● 動員を中心にして一人ひとりが友だちで遊ばせる事で集中できるようにした。
● 食事の時は職員が3人いるので、机を3つのグループに個々に見ていくようにする。

1 学期～



ロッカーの
一部分に絵本
をよそかける



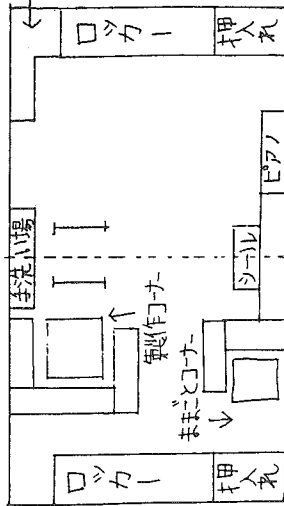
4 歳 児

- ④ 散歩に行つて子どもたちが拾ってきた自然物を生かした壁面を工夫して子どもたちが落ち着くような環境作りを心掛けています。
- ④ 進級して環境が変わった事で、しばらくは不安な様子も見られました。
- ④ 安心して好きな遊びが楽しめるように、3つのコーナー(ままごと・製作・絵本)を設ける。

- ④ 製作コーナーで遊ぶ子どももいるが、やはり保育者がついていないと、関わる子どもも限られてしまう。
- ④ 子どもも要求に合わせて、一緒に活動を行うようにしていく。
- ◇ 引き出しの中には、テープ・折り紙・ペン・ぬりえなど子どもたちがわかるように入れてある。
製作棚も隣材ごとに箱を用意し、同じ物を入れておくようにする。

- ④ 興味がなくなつて飼育物が増えたので、子どもたちの興味を大切にしたい。目につくところに置き、餌やりなどがしやすいように工夫する。
- ④ 毎日、気にして様子を見たり、餌をあげたりする。それを見て、絵を書く子の姿も見られる。
- ④ 子どもたちが作った物を飾るスペースをつくる。
- ④ 朝登園すると、保護者の手を引き「これ、私が作ったの。」と嬉しそうに教え、親子で楽しんでいく。

2 学期～



4 歳 児

- ④ 主に左の部屋は、活動する場で右の部屋は、集まり・生活の場として過ごしている。
- ④ 当番活動が始まり、子どもたちと一緒に当番表を作る。
- ④ 毎朝、登園すると「今日のお当番は誰?」と尋ねてくる子どもがある。自分の番がまわってこくるのを心待ちにしているようである。当番活動も意欲的に頑張っている。
- ④ 自然物を多く取り入れて、壁面などに活用している。廊下などにも子どもたちの作品を展示する。

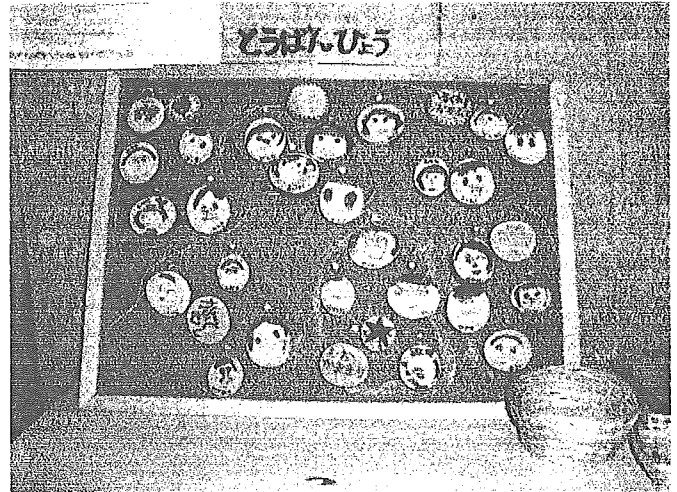
- ④ 季節に合わせて、毛糸等を子どもたちの目にたくさん置く。興味を示した子どもにも紐や物を投げ掛けてみる。クラスの子どもたちも広がっていく。
- ④ 始めはあやとりなどで遊び始めるが、保育者が簡単な編み物を見せてみると、女の子が興味を示し、繰り返し集中して遊んでいる。

- ④ 楽器あそびに興味を持ちはじめたので、楽器・CDデッキ等を子どもたちの要求に合わせて、手の届くところに置いておく。
- ④ 楽器を持って、パレードをしたり、廊下のあいだにダンスを舞台に見立てて、音楽会を開いたりして遊ぶ姿が見られる。広がり、廊下やホール等、自分たちで好きな場所を見つけ、遊ぶようになってきている。



草花がお部屋の
雰囲気を作り出
しています

子ども達が集め
た小枝を中学校
の先生が裁断し
てくれました



《保護者との製作遊び》
心のこもった作品がで
きました



《お散歩で見つけた
自然物の数々》
どんな物ができるか
な!?



3 自然や社会と関わる中で育つもの

自然)

心の安定・表現する喜び・

言葉の
獲得

お花が
好き

大切に思う
気持ち

頑張る力

〇歳

自然【虫・草・花・動物・天候・



感情の
芽生え

外が
嬉しい

動物が
好き

生活習慣
が身につく

やさしさ・頼信感
感性の豊かさ

発達
が

社会)

やさしさ・信頼感

感謝の気持ち

自分と相手の
違いに気付く

車が好き

〇歳

社会【あいさつ・異年齢・地域の人々との交流（サンラ



言葉の
獲得

ありがとう

ルールを覚える

公共のルールやマナー
に気付く・習慣

感性の豊かさ・丈夫な体

感謝の
気持ち

知的
好奇心

6歳

【水・泥・砂・四季・木材・石】



・考える力
豊かになる

遊びの
豊かさ

相手との
心の交流

生命の尊さに
気付く

・感性の豊かさ

人との
接し方がわかる

思いやりの
気持ち

6歳

【イズ・小中学校・工事のおじさん・公共の施設）】



人との関わりの中で
温かさを感じる

遊びの刺激

4 「自然」と「社会」との関わりについて

(1) 月のねらいと反省 (自然) [0, 1歳児]

4	<p>戸外の気持ち良さを感じる。</p> <p>入園、進級まもない子ども達にとって、散歩は気分転換になり気持ちが落ちつくようであった。ベビーカーやおんぶで出掛け、風が吹けば「アー」と声を出して笑う等、自然の変化を体で楽しんでいる。表情の変化を見逃さずタイミングよく、子どもからの投げかけに共感し、応えてあげることが大切だと感じた。</p>
5	<p>保育者と一緒に春の草花に触れる。</p> <p>散歩へ行き綿毛を保育者がふいて見せる。興味を持ち探し始めるが、色が白いのですろつめ草と間違えて、一生懸命ふく。保育者が違うことを伝え、一緒に綿毛を探して関わる。言葉で伝え、体験することで子ども達も気づき、花に触れようとしている。</p>
6	<p>いろいろな外界に触れる。</p> <p>小学校のプールに突然現れた鴨。保育者が鴨の動きを言葉で表現すると鴨の真似をし笑って喜ぶ子、ハッとした表情をしてビックリする子等子どもの感じ方はそれぞれ。0歳児は、傘に落ちる雨音に興味を示した。実際に体験することにより言葉の獲得や物の認識が増えていくので一つひとつの経験の積み重ねが大切と感じる。</p>
7	<p>水や泥の感触を楽しむ。</p> <p>雨上がりに「アメ ナイネ」と言いながら嬉しそうに戸外へ出る。水溜りでは足を入れパシャパシャ。水がはねる音や水の感触が楽しく、水溜りの中を走ってみたりジャンプしてみたり、手で触ってみたり。「オミズキモチイネ」と保育者が声をかけると「キモチイネ」と子ども達の顔もにこにこ。体全体で水の感触を楽しんでいた。</p>
8	<p>いろいろな外界に触れる。</p> <p>散歩へ行くと「バッタさん、アリさんいるかな？」と言って、石をどかしアリなどを探す様子が見られた。以前の保育者の何気ない姿を覚えて真似をする。突然「ミンミン」とセミの鳴き声がして「オッ！」と驚く子ども達。セミが鳴いたりすると興味津々である。0、1歳児であるが、子ども達の観察力はすごいと感じる。</p>
9	<p>個々のペースの合わせ散歩を楽しむ。</p> <p>散歩では歩きたい子の気持ちを大切に、交替で歩く。原っぱでは、とんぼと一緒に走ったり、保育者や友だちと一緒に走ることが楽しいようだ。保育者がとんぼの歌を歌い、一緒に追いかけることでとんぼがより身近になり、保育者の投げかけで色々なことを関連づけることができると感じた。</p>
10	<p>秋の自然にたくさん触れる。自然の音を楽しむ。</p> <p>ハイランドへ行くと広い庭を喜び走り出す子ども達。葉のカサカサという音を楽しみながら歩いたり、落ち葉にうもれているドングリや栗を探したり、小枝を見つけては木々をたたいて遊ぶ。広々とした場所に行くことで子ども達が開放的になり、のびのびと自然に触れていた。箱根ならではの自然から色々なことを感じてほしい。</p>

4	<p>新しい保育者や環境に慣れ、安心して過ごす。 抱いたり、話し掛けたりしてスキンシップをとりながら依存欲求を十分満たす。</p> <p>初めての社会となる園生活がスタート。一人ひとりとの触れあいを通し、信頼関係が持てるよう努めた。4月後半になると担任とならば泣かずに過ごせるようになる。人間の基礎となる乳児期。保育者の関わり方の大切さを身にしみながら日々保育している。</p>
5	<p>保育者との信頼関係を基に、人との関わりを徐々に広げていく。</p> <p>散歩を通し、色々なことへ興味を持つ。中でも男児は車が好きで近くの工事現場への散歩を楽しみにし、工事のおじさんとも顔見知りとなる。初めは緊張していたが、挨拶をしたり、気軽に話し掛ける保育者の姿を通して、子ども達も声を掛けたり笑顔で接するようになっている。保育者の態度がモデルとなる。</p>
6	<p>保育者との信頼関係を基に、地域の人との関わりを広げていく。</p> <p>乳児室の隣にある子育て支援センターは未就園児や保護者の遊びや相談の場になっている。時には場を在園児と共有したりするが、子ども達は、クラス以外の子どもとは距離をおいたり、クラスの子には玩具を貸せても、そうでない子には貸せなかったりと2ヶ月という短い期間だが乳児なりの仲間意識を感じる。</p>
7	<p>保育者との信頼関係を基に、地域の人に親しみを持つ。</p> <p>園の近所にお住まいのおばあちゃん。子ども達の姿を見つけると、声を掛けてくれる。4月からのおばあちゃんとの関わりは、保育者の姿を通し、親しみを持ち始めている。核家族で過ごす子ども達が多いので、何気ない関わりを大切にしていきたい。</p>
8	<p>一人ひとりの欲求を満たし、安心して過ごす。</p> <p>今月は2名の新入園児を迎えた。その二人に関わる担任の姿を見て、在園児は新入園児にやきもちをやいたり、新入園児の不安な様子から泣いたり、とても甘えたりするようになる。子ども一人ひとりの今の気持ちを把握し、受容していきたい。</p>
9	<p>親子の触れあいを楽しむ。保護者にその大切さを伝える。</p> <p>親子との触れ合いを大切に考え、幼児とは別に運動会が行われる。就労の関係で、園で過ごす時間が長い乳児にとって、短い時間だが人との関わりの中で最も大切な親子の時間を持てたことは良かったと感じる。子どもを見つめる保護者の温かいまなざしは、子どもの心の中にも心地良いものとして残ったことだと思う。</p>
10	<p>保育者との信頼関係を基に、地域の人との関わりを喜ぶ。</p> <p>小学校の校庭に出掛けると小学生が乳児の手を優しくひいてくれたり、声をかけてくれる。それを受け入れられる子とできない子はあるが、常に周りの人に見守られ、優しくしてもらう経験がとても大切であり、必要なことだと感じる。少子化の中、自然な形で異年齢と触れ合うことを意識していきたい。</p>

月のねらいと反省 (自然) [2歳児]

4	<p>自然に親しみ、保育者、友だちとの散歩を楽しむ。</p> <p>散歩中、つくし、タンポポ等に出会い、子ども達に直接見せることができることはとても大切なことであると感じた。花が咲いていると摘んでは「綺麗だね」と話す子どもがいた。</p>
5	<p>自然に親しみ、保育者、友だちと散歩を楽しむ。</p> <p>4月に比べて園生活に慣れ、歩き方もしっかりしてきたので、天気の良い日は散歩へ行く回数が増えた。タンポポやつくし等を摘んだり、しろつめ草で腕輪を作る姿が見られた。帰るまでに摘んだ花を落としたりしてしまう子どもがいるので、袋を持って散歩へ行き、草花等を大切に大事に思う気持ちをもてるようにしていきたい。</p>
6	<p>自然に親しみ、保育者、友だちとの散歩を楽しむ。</p> <p>雨の日が続いたが、晴れた時は外へ行くようにする。歌を歌ったり、風を感じて「気持ちいいね」と言ったり、楽しそうに歩く姿がみられた。保育者が木の実等を見つけ、そのことについて話をすると(葉の形、実の色など)次の散歩で自分から見つける姿が見られた。</p>
7	<p>自然に親しみ、保育者、友だちとの散歩、プール遊びを楽しむ。</p> <p>天気の良い日が続き、プール遊びが多くなるが、プールに入れない子どもは外遊びか散歩へ行くことを楽しんでいる姿が見られた。行く先々では、木の葉や虫等の季節の変化に気付く。部屋の中では、部屋に風が入ってくると「風、気持ちいいね」と保育者、友達に話す姿が見られた。</p>
8	<p>自然に親しみ、保育者、友だちと楽しく遊ぶ。</p> <p>散歩へ出掛け、日なたを歩いていると「今日は暑いね」日陰に入ると「涼しい」などと子ども達から言葉が自然とでてきた。</p> <p>あり、ハエ、とんぼを見つけては追いかけ、つぶしてしまう姿も見られた。小動物を大切にすることが持てるようにしていきたい。</p>
9	<p>秋の訪れを楽しみ、散歩へ行く。</p> <p>小学校の裏広場へ散歩へ行くとウリボウに遭遇する。保育者の緊迫感が子どもにも伝わり、静かにする姿が見られた。遭遇した時の対応、散歩コース等考えなければならぬと感じた。</p>
10	<p>木の実や落ち葉など秋の自然に触れる。</p> <p>天気の良い日は散歩へ出る回数も多く、子ども達も散歩へ行くことを喜ぶ。ドングリ、木の実など秋の自然に触れ、拾った実を大切に持ち帰る姿も見られた。</p>

月のねらいと反省 (社会) [2歳児]

4	<p>幼児学園周辺の様子を知る。 工事現場の様子を見ては、驚いたり、嬉しそうにし、工事の働いている人にも、自分から「こんにちは」と挨拶する姿が見られた。</p>
5	<p>少しずつ、地域の人に挨拶をする。 散歩を通し、地域の人たちとの関わりを持ち、挨拶をしたり、会話を交せるようになってきた。又、クラスで出掛け手を繋いだりすることで友だちという意識が芽生え、「僕たち、仲間だもんね」の声も聞こえるようになってきた。</p>
6	<p>異年令児との関わりを楽しむ。 地域の人との関わりでは、今までの経験から見知らぬ人にも挨拶をしたり、今まで聞かれることに応えるだけであったのが、自分のことを伝えようと一生懸命話す姿が見られるようになる。</p>
7	<p>いろいろな人と関わり楽しむ。 散歩の時手をつないでもらったり、リトミックと一緒に楽しんだりすることで、異年齢の関わりを喜んでいた。大きいクラスの友だちの言動を真似てみようとする姿が多く見られ、クラスとは違う刺激を受けていた。</p>
8	<p>いろいろな人に挨拶をし、触れ合う。 水遊びでは、初めての体験であり、いつもと違う環境からか、大きいクラスとではなく、0、1歳児と関わるほうが安心して楽しめていた。</p>
9	<p>いろいろな人と触れ合い、運動会を楽しむ。 普段、子ども達の降園時間は異なるので、2歳児の親子全員で会う機会はなかったが、運動会で親子全員が集まることで、いつもと雰囲気異なり、子どもの様子も変わっていた。</p>
10	<p>地域の人との体験を喜ぶ。 中学校の芋掘りに参加する。初めて見るお兄さん、お姉さんに驚きながらも一緒に芋を掘ったり、芋をとってもらうなど楽しい時間を共有することで少しずつ慣れ、甘える姿も見られた。色々な人に接して様々な体験、経験をしていくことが大切だと感じる。</p>

月のねらいと反省 (自然) [3歳児]

4	<p>春の自然に触れる。</p> <p>草花や虫を見つけ、触れると嬉しそうな顔をしていた。一人ひとりが草花や虫に触れられるように働きかけたつもりだったが興味のない子はあまり目を向けていない姿も見られた。春ならではの草花、虫について子どもが少しでも興味をもてるように働きかける必要があったと感じる。</p>
5	<p>身近な自然に触れ、親しみを持つ。</p> <p>散歩へ行くと様々な形の葉を見つけ驚き、興味を示す。「こんな形の葉を見た」「こんな実があった」たくさん摘んだ花を見て「かわいいね」と感じる等、楽しい経験が少しずつできてよかったが、歩き慣れていない子どもが多いので距離や時間、安全面を考慮し、楽しめるコースを選んでいきたい。</p>
6	<p>身近な自然に触れ、感じて楽しむ。</p> <p>散歩で子ども達に桑の実を話し、食べてみる。「甘い」「おいしい」「食べられる実があるんだ」と一人ひとりが色々なことを感じていた。以後、木の上にも目を向けるようになさくらんぼの木を子どもを見つけ、色づくのを楽しみに待つ姿が見られた。自然に対する興味が少しずつ広がってきた。</p>
7	<p>夏の草花や虫、自然現象を見たり触れたりして興味をもつ。</p> <p>散歩へ行くと「花がない」「赤い実がない」と春に咲いていた花がないことを同じ場所や木から感じ取っていた。保育者が季節の変化のことを伝え、夏には夏の昆虫であるカブトムシやセミ、花、自然現象があることを伝えることで、セミの声や雨の降り方にも目を向けるようになり興味を示すようになった。</p>
8	<p>夏の草花や虫、自然現象を見たり触れたりして楽しむ。</p> <p>雲や雷、夕立など「光った」「なった」「外が暗くなった」と気付く。子ども達なりに目で見て、耳で聞いて感じ取っていた。保育者も「夕立だね」「雷だね」と伝えると子どもたちも「雷だ」と言う姿も見られ、言葉と目で見たことを通し自然現象を関連付けることができ、より身近なものへと変わった。</p>
9	<p>初秋の自然を見て、触れて喜ぶ。</p> <p>秋の実を拾い、触れ、楽しむ、喜ぶことを中心とする。初めて見る面白い実を発見し図鑑で調べる。降園時、子ども達は保護者に実の名前、特徴を話す。保護者もその実の名前や特徴に興味を示し、親子で会話をする。意識しないと解らないような小さな実だが自然に対する会話を親子でもつきっかけをつくることができよかった。</p>
10	<p>身近な自然に触れて、秋の自然を楽しむ。</p> <p>散歩へ出掛け、木の実拾いを楽しむ中で保育者が木の実の種類を伝えることもあったが、「大きさ、形が違う」と気付き発見する子どももいた。「前は栗落ちていなかったね」と以前の様子と比べる子どもの姿も見られ、子ども自身が季節が移り変わる自然を同じ場所を通して感じ取り夏とは異なる秋を感じていた。</p>

月のねらいと反省 (社会) [3歳児]

4	<p>新しい環境に慣れ、安心して過ごす。</p> <p>緊張気味の子ども達を温かく迎え、初めて出る社会の一步である子ども達にとって保育者の存在はとても大きい。子ども達の声に耳を傾けてきたが、新入園児に手をかけてしまったと反省し、慣らし期間の午後は在園児と深く関わるようにする。</p>
5	<p>挨拶という触れ合いをする。</p> <p>保育者が地域の方と積極的に挨拶をすることで子ども達も率先して挨拶をしたり、「行ってくるね、おばあちゃん」と近所の方に声をかける子どもの姿も見られた。散歩を通し、車では気付かない町並みや町の人々を子ども達は発見する。子どもの驚きや発見に共感することで子ども達はより、外の世界に興味を示していた。</p>
6	<p>挨拶という触れ合いの楽しさ、嬉しさを感じる。</p> <p>散歩では保育者が率先して挨拶をすると子どもも進んで挨拶をする。保育者が「挨拶は気持ちがいいね。おばあちゃん、とても嬉しそうだったよ。」と伝えると子ども達も笑顔を見せる。このような経験を繰り返し、挨拶は気持ちがいい、自分がいることで地域の方々も嬉しくなる、地域の中で自分が成長する等、感じてほしいと思う。</p>
7	<p>夏の行事に参加し、いろいろな人と触れ合う。</p> <p>納涼大会では、友だちの家族を知り、地域の人と顔見知りになる。青南小学校との交流では怖がる子もいたが、会話を楽しんだり、遊んでもらうこと、気持ちを受け止めてもらうことで嬉しい、楽しいという思いを体験できた。人との触れ合いを通し、嬉しい、楽しいという感情をこれからもたくさん経験できるよう計画していきたい。</p>
8	<p>異年齢児との触れ合いを楽しむ。</p> <p>夏季保育で合同保育を体験する。子ども達には4、5歳児は「大きい」と感じ、怖がる姿も見られたが、保育者を仲立ちとし生活することで、優しさを嬉しい、遊んでもらうことを楽しい、等という思いをたくさん経験した。また、担任以外の保育者にも受け止めてもらい、深く関わることもできたので、とても良い経験になった。</p>
9	<p>運動会を通し、友だちの保護者に触れる。</p> <p>保護者の方が皆に声をかけてくれ、応援してくれる姿や一緒に触れ合ってくれること、注意をしてくれる等、皆でもも組を見ているという姿勢が感じられた。保護者のそのような姿勢、自分を見てくれているという思いがあるからこそ、子ども達も自分から人へ挨拶をしたり、声をかける等、人と関わろうとするのだと感じた。</p>
10	<p>中学生との交流を楽しむ。</p> <p>中学生との交流で芋掘りを楽しむ。異年齢との関わりも少しずつもてるようになったことや、中学生の優しさから、怖い、嫌だと言う子どももいず、芋掘りを通して中学生の優しさや憧れを感じ、楽しい時間を共有することができた。様々な人に優しくしてもらうこと、地域の中での自分の存在を認めてもらうことが子ども達にとってはとてもよい体験になると感じる。</p>

月のねらいと反省 (自然) [4歳児]

4	<p>身近な春の自然に触れて遊ぶ。</p> <p>園庭で自然物を使って、釘打ちやのこぎりに触れることのできる製作コーナーが登場すると、「木」という素材が子ども達にとって身近にありながら、製作の材料としては、目新しかったようで、黙々とコーナーに向かう姿がみられた。</p>
5	<p>戸外遊びを十分にたのしむ。 やりたい遊びを見つけ十分に楽しむ。</p> <p>園庭では泥だんごづくり、虫探しなどをして楽しむ姿が見られる。しかし、花は摘んだらつまっぱなし、虫はとったらとりっぱなしということが多く、命があること、どう育てるのかということも子ども達と考えていきたいと思う。</p>
6	<p>身近な自然に親しみをもち、動植物と触れ合って遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>保育室で飼育しているおたまじゃくしやかには、元気に育ち、子ども達も水かえやえさやりを楽しみにしている。おたまじゃくしから足が生え、手が生えたと「カエルになってきたよ」と興味深そうに観察していた。</p>
7	<p>夏の遊びを十分に楽しむ。</p> <p>散歩に行く機会は少なかったものの、水遊びに積極的に参加する姿が見られた。体調を崩しプールに入れない子どもが多かったが、戸外遊びの中でも、砂遊び、水遊び、を体いっぱい楽しんでいたようだ。</p>
8	<p>保育者や友だちと一緒に夏のあそびを十分に楽しむ。</p> <p>今年の夏は、特に小学校のプールに数回行く事ができて良かった。始め少しこわがる子どももいたが、数を重ねるごとに、水の気持ちよさ等を感じられた。戸外へ出て木陰を歩くと、風がふいて気持ちがよく、帽子をとって涼んだ。昆虫等に興味のある子どもが多いが、園のまわりではあまり見つける事ができず、家庭から持ってくる子どももいた。</p>
9	<p>身近な自然に親しみ季節の移り変わりを感じる。</p> <p>散歩に行く回数も増え、バッタをつかまえ図鑑で見比べてみたり、木の実（特に栗のイガに興味を示し）をよくひろう姿も見られる。これからますます秋らしくなっていくことと思うので、戸外活動を増やしていきたい。</p>
10	<p>秋の自然に親しみ、興味を持って関わりながら遊ぶ。</p> <p>散歩へたくさん出掛け、箱根の秋を感じる。しかし、例年落ちているどんぐりや松ぼっくりが今年は台風のせいかほとんど無くあまり集めることができなかった。下見をし、園の周りの環境を把握しておく必要があったと反省する。又、拾った木の葉や実を製作コーナーにおき、飾ることもしたが、決まった子どもが関わる事が多く、場を設定しないと関わる子どもが少ない子どもが多いので機会をもっと設けていきたい。</p>

月のねらいと反省 (社会) [4歳児]

4	<p>生活習慣が身に付き、進んでしようとする。</p> <p>散歩に行く際、自然の心地よさやおもしろさ等、保育者も共感しながら散歩を楽しんでいる。また、園外に出る時のルールをくり返し伝え、守ろうとする姿、互いに注意する姿が見られ、今後も道路での歩き方など繰り返し、伝えていきたいと思う。</p>
5	<p>保育者や友だちと一緒に楽しく遊ぶ中で、園の生活の仕方に気づく。</p> <p>5月は、花月園に園外保育に出かける。路線バスを利用し、15～20分程の距離を乗ったが、降りる際、自然に「ありがとうございます。」と運転手さんにお礼を言う姿が見られた。日頃の生活の中でも、あいさつは自然と身に付いているようなので、保育者が見本となり、あいさつすることの気持ちよさを伝えていきたい。</p>
6	<p>園生活の中で、必要なことを自分でしようとする。</p> <p>箱根園の園外保育では、バスの運転手さんに「お願いします・ありがとうございました」とあいさつしている年長児の姿をまね、一緒にあいさつをする姿が見られた。また、下の子の面倒を見たがることも増え、年長さんがあこがれの存在になりつつある。これからも、活動を共にする機会を多くもっていきたいと思う。</p>
7	<p>友だちや異年齢との関わりを持つ。</p> <p>プールはほとんど4、5歳合同だったので、自然と関わる事が出来た。5歳児を対象とした月々のサンライズの来園にも興味を示し、2階からテラスやホールをのぞき、中には、近くまで行ってお年寄りに声を掛けている子もいた。さまざまな人との関わりを園内外で積極的に行っていきたい。</p>
8	<p>異年齢児との関わりを楽しみ、安定して過ごす。</p> <p>夏期保育に入り、3～5才児の合同保育が行われた。異年齢の普段とは違った遊びや、担任以外の保育者との関わりも増えた事で、いつもとは違う子どもの姿や発見がある。保育者や友だちの関わりがとても大切だと感じ、2学期からの保育につなげていくようにする。</p>
9	<p>運動遊びの楽しさを味わったり、運動会を楽しみに活動に参加する。</p> <p>今月は運動会に向け活動していく中で、異年齢と活動を共にすることも多く、また、夏の間の合同保育でできた異年齢の友だちと引き続いて遊ぶ姿も自然と見られ、保育者が特に意図的に場を設定しなくても、関わり合いが見られるようになってきているので、その姿を大切にしたい。</p>
10	<p>身近な人々と親しみをもって関わる。</p> <p>敬老会や中学校との交流では、子ども達が自然と話かけたり、側による姿が見られた。特に側による子どもは決まった子であり、普段接しない人がくると進んで関わる。また、関わりをもたない子へは、関われるよう配慮をすると共に、保育者が自ら関わる姿をみせることによって人へ対して安心感を持ち、関わろうとする気持ちへつなげていきたい。</p>

月のねらいと反省 (自然) [5歳児]

4	<p>春の自然と触れ合い、色々な形で表現しようとする。</p> <p>散歩にでかけ、ツクシや花集め等子ども達が進んで行ったり、感じたことを友達や保育者に話しをしたりする。子ども達から「散歩に行こう」等という言葉もでてきて、純粋にその楽しさを感じているようである。その場での楽しさをくり返し、十分感じていくことが、次への遊びへとつながっていくのかと考える。</p>
5	<p>身近な動植物に親しみや興味、関心を持つ。</p> <p>ごちそう作り、かんむり作り等子ども達が進んで自然を遊びや生活に生かす姿が見られるようになり、4月に比べると、自然との遊びも一歩進んだように感じる。生き物も毎日興味を持って見たり、関わったりしている。子ども達の気づきを大切にしていきたい。</p>
6	<p>身近な自然現象や動植物に触れ、遊びに取り入れようとする。</p> <p>暑くなって色水遊びを楽しむ姿がある。色水遊びといってもいろいろな方法があるので、どんな事を経験させたいかを考え、そうするには、物や時間、人数の把握等計画的に考えていく必要がある。</p>
7	<p>夏の自然事象に興味や関心を持ち、季節感を十分感じ、遊びに生かす。</p> <p>短い仙石の夏、子ども達が楽しみにしているプール遊びをたくさんする。プールの関わり方にも個人差があり、とても慎重な子、積極的な子等があり、その子のペースを大事にした。遊び方も最初は、ただびしゃびしゃ水しぶきをあげていたのが、少し泳ごうとする姿になっていき、その姿に合わせて活動を考えていきたい。</p>
8	<p>草花や虫等に触れて遊び、関心を持ち、進んで関わろうとする。</p> <p>男の子は虫に興味があり、全力で追いかけてつかまえようとする姿が見られる。その都度「あとちょっとでとれそうだったんだよ」等と伝えにくる。暑い日が続くので、補給や、休憩等、体調に合わせて遊ぶ。汗を拭く、着替え等の管理はまだ難しいので、声をかけながら自分で気づけるようにしていきたい。</p>
9	<p>草花や虫等に触れて遊び、色々な自然に関心を深め、進んで関わる。</p> <p>トンボを見つけると網を持ってくる子、虫カゴを取りに行く子、つかまえたトンボに草花を取ってあげる子等、決めるわけでもなく、自然に役割が決まり、行動する。友だちと一緒に遊ぶ中で、自分の動き等を知ってきたのではないかと感じる。一人ひとりが輝ける場面を、子ども達自身が気づけるように援助していきたい。</p>
10	<p>季節の変わり目によって身近な自然の変化に気づき、興味や関心をもつ。</p> <p>自然物のコーナーを設けたことで、興味をもった子どもが進んで関わる。作品を皆の前で紹介することで、他の子ども達も刺激を受け、取り組む姿が見られた。その子なりに工夫して作る姿はあるので、大切にしていきたい。</p>

月のねらいと反省 (社会)【5歳児】

4	<p>身近な人と触れ合う中で安心して自分を表現する。</p> <p>朝のあいさつ等、進んで保育者にしてくる子どもが数人、とても良い事だと感じる。皆の前で話しをすると、次の日違う子までもがあいさつをする姿が見られる。一人ひとりの良いところを広げていかれるよう援助していきたい。</p>
5	<p>色々な人に遊んで関わり安心して過ごす。</p> <p>サンライズ(高齢者)の方と、どう関わってよいか分からない子どもがいたが、周りの友だちと一緒に触れ合える機会がもてた。人との関わりの幅が広がったのはいか。自然な関わりを大事にしながら、子ども達は親しんでくると思うので、一緒に出来ることを考え場を設定していきたい。</p>
6	<p>身近な人や物との関わり方を自分なりに考え、行動しようとする。</p> <p>サンライズが来園することを子どもに伝え、その時にどんなことをしたらよいのか子どもの考えを聞いたり、保育者の思いを伝えたりすることが必要である。せっかくある機会を大事に子どもの気付きとなるよう援助していきたい。</p>
7	<p>様々な場面の中で自分の力を十分発揮する。</p> <p>いつもあまり話さない子が4才児の子と関わる事によって、声を出して会話をしていった。また、皆の前でも恥ずかしながらではあるが、発言していた。周りの子も喜び、特に女の子はその子に関わる事が増えた。もっとみんなが溶け込んでいけるよう関わりを大切に、見守っていきたい。</p>
8	<p>異年齢児との関わりを楽しみ自信を持って行動する。</p> <p>夏の間、合同保育をする中で色々な友だちや保育者との関わりが持て、普段と違った姿が見られたり、さまざまな遊びが展開されていた。4時以降の保育も喜び、時には帰る事を嫌がる子どももいる。本来、家は安心の場、安らぎの場であるが、そうでない子どもがいることを強く感じる</p>
9	<p>1つ1つの行事の意味を知り、人との触れ合いを深め取り組んでいく。</p> <p>町敬老会ではダンスの表現、運動会に向けては他のクラスに出し物を見てもらう等、自分達の表現を認めてもらう事で次への意欲や、表現する事への安心感を持てるようになった。無理な表現を求めるのではなく、子ども達が喜んでする表現を積み重ねていく事が大事な援助だと考えるので、工夫していきたい。</p>
10	<p>色々な人と積極的に関わり、意欲的に取り組み、表現する。</p> <p>園外で出会った人に大きな声で挨拶をすることや、聞かれたことに答えるなど関わり方が分かり自信をもって表現している。優しく関わってもらうことで甘えて強い言葉で話をする場面も見られるので、関わり方を子どもと共に考えていきたい。</p>

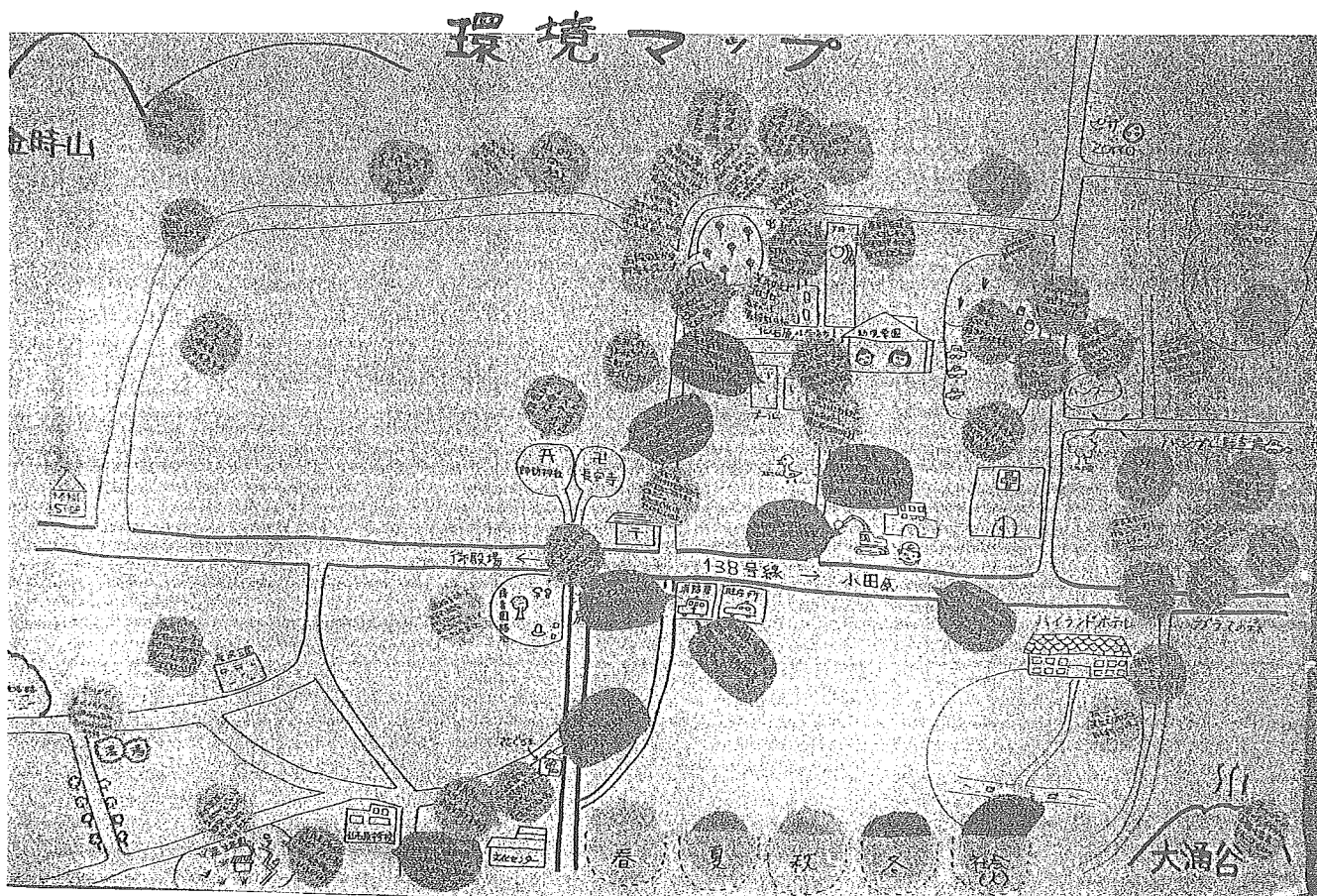
(2) 「自然」と「社会」環境マップづくり

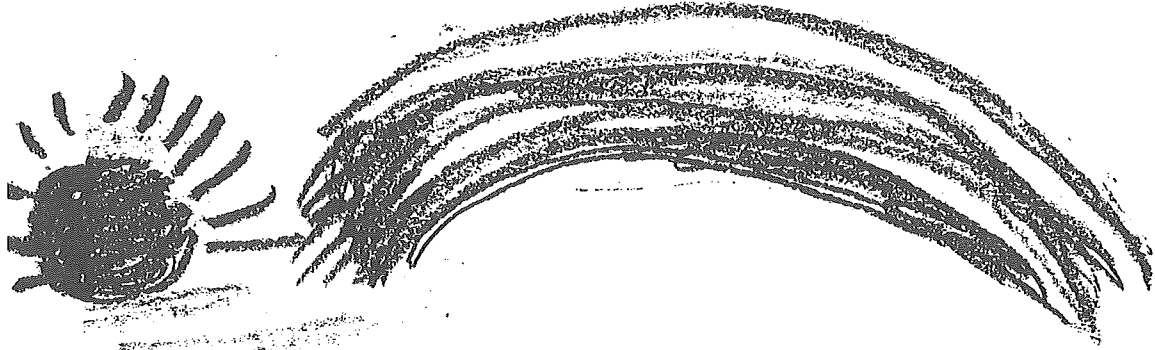
子ども達は、毎日の生活の中で、身近な物的、人的環境と触れ合い興味・関心を深め、実体験を積み重ねていくことが、豊かな子どもの育ちへとつながっていくと考える。

地域には、豊かな自然・社会・文化があふれているが、新採用や異動してきたばかりの職員が多く、その豊かな環境がどれだけ活かしているかという課題があげられた。地域環境を活かし、積極的に活用を図れるよう、地域環境を洗い出していくようマップ作りをしていく事を研究の視点の1つとした。

地域とかかわる子どもの姿を意識的に見ていく事や表にあらわしていく事で子ども理解にもつながり、保育者間で子どもについての共通理解の1つにもなった。また、子ども達の体験を保護者へも知らせるようマップを見えるところにはり、保護者との連携にもつながった。

地域に根ざした、地域に開かれた、また、発信源となる園になるよう、更に、このマップを活用し、計画的に保育に活かしていきたい。





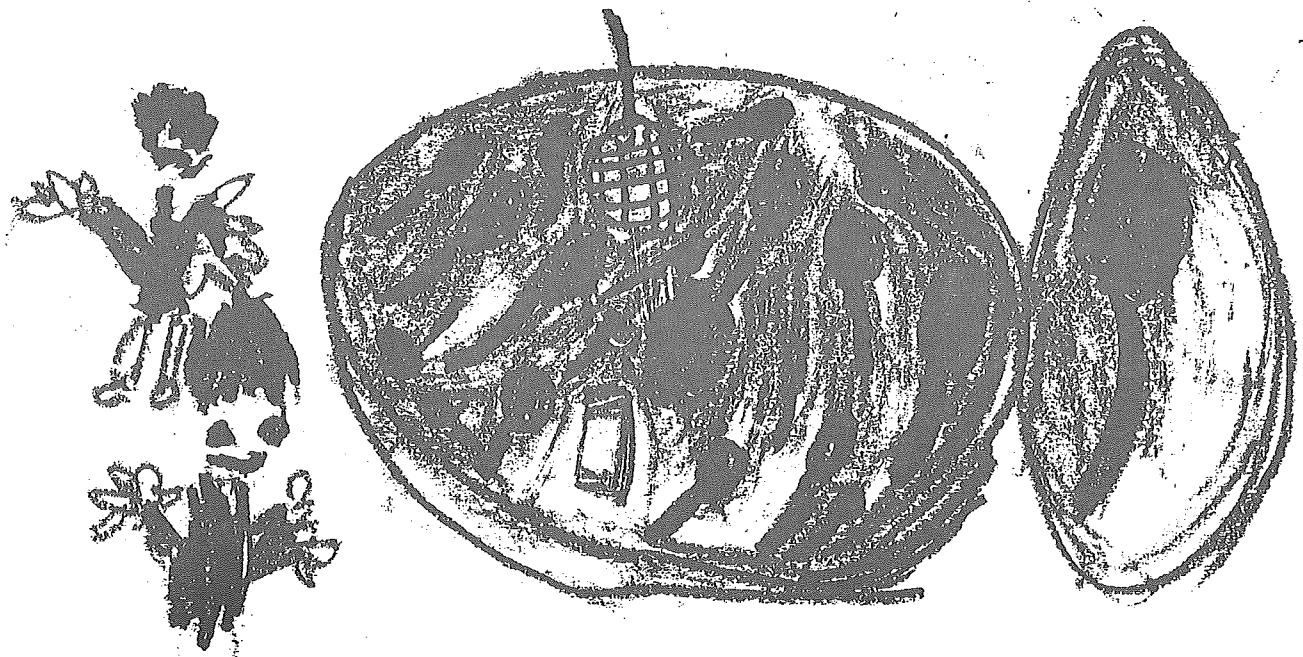
5月12日 野鳥の森へ出掛けました。

鳥の声を聞き ‘ものまね大会,’ が始まったり

草花を集めて髪に飾ってお姫さまに変身したり・・・

そして、おたまじゃくしをたくさん、たくさん捕まえてきました。

死んでしまってお墓を作った悲しい事もありましたが、
カエルに育てて「バイバイ」「げんきでね」と逃がしてあげたときの
子どもはとても嬉しそうでした。



5 実践事例

(1) 自然、社会から

<<0. 1歳児 つくし、いちご組>>

風さん こんにちは

4月から散歩を通し、たくさんの自然に触れてきた。保育者は日の光の暖かさや風の心地よさを言葉で伝えたり、草花や虫に触れその香りを楽しんだり、動きなどを真似したりして、子ども達は自然との触れ合いを楽しんできた。

お昼寝前の6月のある日。布団に入りそれぞれが保育者とお話をしたり、添い寝をしてもらい静かな時を迎えていると、網戸にしてあった窓から風が入り、閉めてあったカーテンが「ふわー」と膨らむとともに、心地よい風がA男のところへ届く。それに気付いたA男はカーテンの膨らみに驚き、「わあ！」と声を上げ顔を輝かせる。保育者もA男と一緒に喜び、「風さん こんにちはって来たね。」と言い、それが風によるものであることを伝える。するとA男もカーテンが膨らむたびに「かぜさん こんにちは！こんにちは！」と言い喜ぶ。逆に風が出ていく時は、勢いよくカーテンがピシッと網戸につく。先程とは違った動きにまた「わあ」と顔を輝かせる。今度は「風さん バイバイだね。」と伝えると同じ言葉を言い、しばらくこのやりとりを繰り返して楽しんだ。

カーテンの動きによって戸外とは違う、風のおもしろさを感じられたのね



かぜさん
またきてね。

～事例からわかったこと～

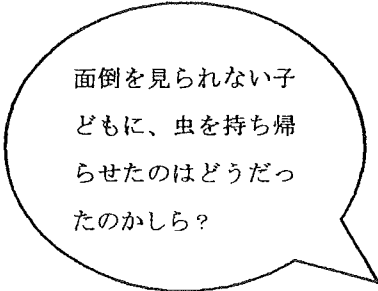
- ☆ 子どもの表情を見逃さず、同じ気持ちで共感することが大切である。
- ☆ 子どもの気付きに応え、共感することを繰り返すことで感性が育っていく。
- ☆ 子どもの気付きや感情の動きを保育者が言葉で表現することで、言葉の獲得へつながる。

◇ 自然は、室内でも感じられることで、保育者自身の感性が大切である。

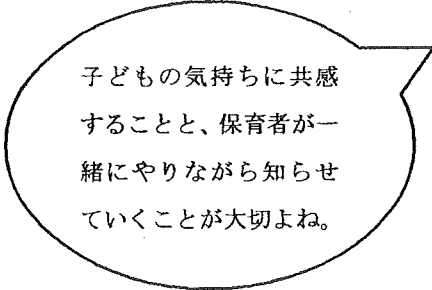
<<2歳児 ちゅーりっぷ組>>

虫について

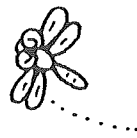
他のクラスでバッタ、カメなど生き物を見ることが好きで、異年齢児と一緒に見ては「動いているね」と言って興味を示す。他のクラスに行くと「見せて」と言ってはしばらく見ていることが続いた。今日は久しぶりに散歩に出かけた。幼児学園駐車場の草むらに行くと3歳児と出会う。最初は草花を摘んでいた子どもも「バッタがいた」の声に反応し、捕まえようとする。3歳児も一緒に追いかけて回すがなかなか捕まらない。喜んで追いかけて回し、ついにA男が一匹捕まえた。それまでは虫かごの中のものを見る機会が多かったが、身近でピョンピョンはねるバッタを見て、とても嬉しそうだった。ペットボトルで作ったケースに入れ、毎日のように見ていた。しかし可愛がっているつもりでも振り回したり、触りすぎてしまいしばらくして死んでしまった。「動かなくなっちゃったね」「かわいそうだね」と子ども同士の話が聞かれた。



面倒を見られない子どもに、虫を持ち帰らせたのはどうだったのかしら？



子どもの気持ちに共感すること、保育者が一緒にやりながら知らせていくことが大切よね。



～事例からわかったこと～

- ☆ 2歳児では死についてあまり理解できないが、実体験を通しその時、大人がどう関わるかが大切である。
- ◇ 保育者と一緒にたくさん虫に触れたり、自然の中で遊んだ経験が、そのものを好きになっていく。それが大切である。